

令和6年度

第19回「SYDボランティア奨励賞」受賞者名簿



後援:文部科学省

「広がれボランティアの輪」連絡会議

公益財団法人日本レクリエーション協会

公益社団法人日本キャンプ協会

受賞者一覧

(敬称略・順不同)

文部科学大臣賞

宮城県農業高等学校 桜プロジェクトチーム

(宮城県)

優秀賞

【小・中学生の部】 松茂町立松茂中学校

(徳島県)

【高校生の部】 愛知県立安城高等学校
ハッピーキッチン

(愛知県)

【大学・一般の部】 学生NGO ALPHA

(東京都)

特別賞

■ うるま市立津堅小中学校

(沖縄県)

☆第19回SYDボランティア奨励賞には、31都道府県より[小・中学生の部]20件、[高校生の部]32件、[大学・一般の部]22件の計74件の応募があり、選考委員会において厳正なる選考の結果、上記受賞者が決定されました。

SYDは、1906年、東京府師範学校(現在の東京学芸大学)に学ぶ蓮沼門三を中心とする青年たちによって創立された社会教育団体です。“愛と汗の実践”を理念として「心の教育」一筋に歩み続けて119年、青少年の健全育成を中心とした様々な活動を行っており、今、みんなの幸せを願う「幸せの種まき運動」を全国的に展開しています。

文部科学大臣賞

宮城県農業高等学校 桜プロジェクトチーム

(宮城県)

東日本大震災発生当初、宮城県沿岸部の学校は津波で全壊し、町も大きな被害を受けました。しかし、津波から奇跡的に生き延びた桜が花を咲かせ、私たちに勇気を与えました。これらの桜を復興の象徴として、組織培養技術を使い増殖し、沿岸部に1,000本以上の桜を植樹しました。しかし、地域の人々が戻らず、閑散としているため、どうすればにぎわいが戻るか、元内閣総理大臣・小泉純一郎氏へ質問したところ「新しいものをつくろうという感覚が大切」というアドバイスを受け、桜を活用した地域振興を目指すことになりました。

桜を利用した地域振興のため、まず「沿岸部で花見をしたいか？」というアンケート調査を実施しました。結果、91%が「沿岸部で花見をしたい」と答え、地域の人々が潜在的に花見を楽しみにしていることが分かりました。しかし、塩害に強い桜は限られており、耐塩性を持つ桜の開発が求められました。アンケート結果に基づき、専門家に相談し、提案された2種類の桜を選び、耐塩性の調査を行った結果、優れた耐塩性を確認しました。

その後、高温乾燥にも耐えられる桜の試験植樹を行うため、JICAの助言を得て、鉄分活性剤を利用した新たな活力剤を開発しました。使い捨てカイロから鉄粉を取り出し、クエン酸や酢酸と組み合わせて活力剤を自作することで、低コストで高温乾燥耐性を持つ桜の育成に成功しました。試験結果では、この新しい活力剤が桜の高温乾燥耐性を高め、植樹の成功率を大きく向上させることが確認されました。

さらに、この研究の成果は宮城県内外に広がり、岩沼市や石巻市、名取市を中心に「玉夢桜」を植樹しました。この桜は、復興を象徴する存在となり、地域の人々から親しまれるようになりました。加えて、昭和天皇が植樹された「昭和万葉の森」など、全国的にも桜の植樹が行われ、地域振興と震災記憶の継承が進んでいます。地域の方々との共同活動を通じて、桜が人々の絆を深める重要な役割を果たしていることが実感されています。

国際的にも注目を浴び、2023年にはJICAの研修で9カ国から来日した研修員に「玉夢桜」の挿し木体験を行いました。将来的には海外での植樹も計画しており、地元小学生と共にアカマツと桜を植樹するなど、震災の教訓を未来に伝える活動は拡大しています。これにより、活動の価値が広く認められ、「SDGsな活力剤」「夢があり、ユニークで将来性のある研究」と絶賛されました。

私たちの活動はまだ続いており、次の目標は2,000本の植樹です。今後の課題としては、植物活力剤の効果の更なる検証、品種登録を目指した交配の推進、そして沿岸部に新たな名所をつくり、地域に活気を取り戻すことが挙げられます。また、震災の経験を未来に伝えるために、宮城県農業高等学校の活動を広く知ってもらうことも重要です。桜を通じて、地域の笑顔の輪を広げ、持続可能な未来を照らす活動を続けていきます。



沿岸部にて7種の桜を用いて試験植樹を行う様子



小泉純一郎元内閣総理大臣と対談し、どうすれば沿岸部に人が戻るか質問している様子



全国育樹祭1年前イベントの「昭和万葉の森植樹祭」にて地域の方々とともに植樹にむかう様子



「国民参加の森林づくりシンポジウム」にてポスター発表とアンケート調査を行う様子



JICA筑波センターにて外国人研修員の方と桜を植樹する様子



研究発表を通し、地域へ沿岸部の現状を発信している様子

優 秀 賞

【小・中学生の部】 松茂町立松茂中学校

(徳島県)

松茂町では、町主導で STEAM 教育が進められており、松茂中学校では生徒主体のボランティア活動が行われています。5年前、生徒会が全校生徒に公募して学校のキャラクター「まっちゅん」を決定し、その後、STEAM 教育の一環として商品化プロジェクトを立ち上げました。地域のマツシゲートラボの設備(3D プリンタやレーザーカッター)を使用し、キャラクターを使った商品を製作。生徒たちは松茂町のマルシェに参加し、自分たちで販売し、その売上金でクリアファイルを配布したり、地元福祉施設に車椅子を寄贈したりしています。贈呈式では吹奏楽部が演奏を披露しています。

また、松茂町の地域団体「はあとふる松茂」では、地域の学校が協力してペットボトルやアルミ缶を集め、その収益をベトナムのタンソン村に寄付する活動が行われています。2006年から続くこの活動に、松茂中学校も積極的に参加。さらに、JICA に勤務する卒業生の永易亜季子さんを招き、ウガンダの中学生とオンラインで交流する機会も設けました。生徒たちは異文化理解を深め、ウガンダの現状を学びながら募金活動を行い、日本の鉛筆を寄贈しました。

本校の生徒会は「学びの架け橋」活動として、幼小中高の異年齢交流を進めています。商品化プロジェクトで作ったキーホルダーや松ぼっくりのクリスマスツリーをプレゼントし、サンタクロースに扮して親睦を深めています。これらの活動は地域社会との絆を深め、異なる世代との交流を通じて生徒同士の絆も強めています。

STEAM 教育の一環として生徒たちは、地域のマツシゲートラボの機械を使用し、デザインや制作を行いながら商品化を進めています。その売上金は、福祉施設に車椅子を寄贈したり、地域貢献活動に使われています。このように、地域貢献を意識した活動が進められ、生徒たちは社会とのつながりを実感しています。また、保護者や地域と協力しながら、活動の幅を広げています。

教育を通じて、生徒たちは論理的思考や創造力を育み、地域社会への貢献を深めています。過疎化が進む地方で、郷土に誇りを持ち、地域を活性化させる人材を育成しようという目標があります。生徒たちは、地域に根付く人材として自ら進んで地域活動に参加し、社会貢献を意識するようになっていきます。

一方で、これらの活動を継続するためには、教師のスキル継承や人材育成が重要です。現場では教師の負担が一部の者に集中していることが課題であり、持続可能な形で活動を続けるためには、全体での協力や小さなアイデアの積み重ねが必要です。行政の支援や予算確保も課題であり、商品化プロジェクトの実施には資金面での問題もありますが、生徒たちの主体的な活動を支えるために学校全体で取り組みを続けています。



商品化プロジェクト干し芋製造



商品化プロジェクトマルシェ販売



福祉施設(和光園)車椅子贈呈式



ベトナムタンソン村プロジェクト



ウガンダ支援プロジェクト(永易さんと)



幼稚園クリスマス慰問

【高校生の部】 愛知県立安城高等学校 ハッピーキッチン (愛知県)

「食」をテーマに、高校生の持つ明るさや学んだ知識・技術を活かし、出前講座や商品開発を通じて地域にハッピーな時間を提供するボランティアグループとして活動しています。現在、ローゼルという植物の普及活動を行っており、4年前に障がい者支援施設から商品開発の依頼を受けたことがきっかけです。ローゼルはビタミン・ミネラルが豊富で、二酸化炭素吸収量が多いため、安城市に広めるべく活動を開始。SDGs アクションプランに基づき、「健康増進」「環境保全」「就労支援」の実現を目指しています。

活動内容は多岐にわたり、まずローゼルの苗木を地域に植栽し、「環境保全」を進めています。安城農林高校に苗木を育ててもらい、行政と連携して公園や町内、企業などに植栽しています。次に、ローゼルのガクや種を収穫し、障がい者の「就労支援」を行っており、商品原料として支援施設に寄付。また、イベントで種を無料配布し、地域の方々に育ててもらおうよう啓発しています。さらに、出前講座を通じてローゼルの普及を進め、健康増進と環境保全を図っています。

ローゼル商品の共同開発にも取り組んでおり、行政、大学、企業、施設と連携し、障がい者支援施設に製作を依頼したり、販売に協力することで「就労支援」を実現。これまでに「ふりかけ」「バスボム」「入浴剤」「ジェラート」などの商品を開発し、地域のイベントで販売しています。ローゼルを特産品化し、地域産業の活性化にも貢献しています。イベントでのパネル掲示やチラシ配布、ニュースリリースを通じて地域の特産品としてアピールしており、今後はふるさと納税の返礼品作成を行政と共に進めています。

「ハッピーキッチン」は、生活文化科の生徒たちが2009年にごま油研究をきっかけに創設した「食」に関するボランティアグループです。2011年に模擬会社として組織を設立し、翌年には現在の名前に改名。活動は15年目を迎え、1～3年生40名が参加しています。目的は、高校生の知識と技術を活かし、地域に貢献すること。活動コンセプトは、「食」をテーマに地域との交流を深め、食べる楽しさと大切さを伝えることです。また、地産地消やSDGs 目標の達成にも取り組んでいます。

グループは、イベントサービス部門、商品開発部門、地域貢献活動部門の3つに分かれ、それぞれが異なる活動をしています。社長、副社長がリーダーとしてグループをまとめ、部長を中心に各部門が活動を進めています。定例会は月に2回開かれ、活動報告や内容の審議、今後の予定が話し合われます。この活動は、福祉施設、高校、企業、保育園、大学、行政との連携を強化し、地域の課題解決に繋がっています。

活動開始から4年が経ち、ローゼルの知名度は特に女性や年配者の間で向上しました。高校生のパワーが行政を動かし、地域の支援者も増えています。ローゼルを景観植物として植栽し、町内の活性化を目指す地区も現れています。活動を通じて生徒のコミュニケーション力や自尊心が育まれ、心の成長にも繋がっています。今後は、若年層にも知ってもらえるようにローゼル商品の魅力を発信し、ふるさと納税の返礼品開発を進める予定です。これにより、地域課題である寄付金額の向上やカーボンニュートラル実現、休耕地問題解決にも貢献することを目指しています。



愛知県立安城農林高校の生徒と企業へ苗木を植樹



ローゼル商品の販売活動



ローゼルの料理講習会



イベント会場での広報活動



商品開発に向けて企業と打合せ



開発した新商品
「ローゼルジェラート」

【大学・一般の部】 学生NGO ALPHA

(東京都)

学生NGO ALPHAは、フィリピンの教育環境改善を目指し、小学校の建設とワークショップ(WS)授業を行う学生団体です。活動は国内外で行われ、街頭募金やクラウドファンディングを通じて資金を集めています。学生主体の団体で、メンバーが資金調達から現地活動の実施までを担い、現地での教育環境改善に貢献しています。

学生NGO ALPHAは2009年に東京外国語大学で設立され、現在では多くの大学から学生が集まり、フィリピンでの支援活動を行っています。毎年、春と夏にフィリピンに渡航し、現地の学校で教室建設とワークショップを実施しています。現地の大工と協力して砂袋運びやセメント作りを行い、子どもたちが安全に学べる教室を提供します。また、フィリピンの子どもたちに向けて、現地で実施されていない内容の授業を行い、視野を広げることを目指しています。

活動方針は「マイナスを埋め、プラスをつくる」という理念に基づいています。マイナスを埋める活動は、教室建設で、現地の教育環境を改善します。プラスをつくる活動は、ワークショップで、子どもたちに新たな知識を提供し、学ぶ意欲を引き出します。このように、フィリピンの教育の質を向上させ、将来の選択肢を広げる手助けをしています。

支援地を選定する際、緊急性、安全性、継続性、オリジナル性を基準にしています。現地調査を自ら行い、他団体が支援していない地域を選んでいきます。これまでに6つの村に22の教室を建設し、2025年3月には23番目の教室を建設予定です。現地調査では、メンバーが直接現地を訪れ、学校の先生や地域住民と今後の支援について話合っています。

国内活動では、街頭募金やクラウドファンディングを通じて資金を集めています。特に、東京の吉祥寺で地域イベントに参加し、フェアトレード商品を販売することで、学生NGO ALPHAの活動を広く知ってもらい、地域との連携を深めています。また、東京の小中学生に向けて、フィリピンの教育問題に関するワークショップを実施しています。

活動は、フィリピンの教育環境を改善し、現地の人々の雇用創出にも貢献しています。教室建設では現地の大工や職人を雇用し、地域の経済にも寄与しています。ワークショップを通じて、子どもたちの学習意欲を高めることにも貢献しています。

今後、学生NGO ALPHAは活動を拡大し、より広い視点で長期的な支援を行いたいと考えています。資金調達や運営には課題もありますが、地方への展開や他団体との連携強化を進め、より多くの人々に活動を知ってもらいたいと考えています。学生NGO ALPHAは日本とフィリピンを繋げる架け橋となり、持続可能な支援活動を展開していきます。



フィリピン・パナイ島
ランブナオ市の小学校



フィリピンの支援先での
ワークショップの様子



国内イベントにおけるフェア
トレード製品販売



現地での教室建設の様子



現地の「スモーキーマ
ウンテン (ゴミ山)」



国内イベントにおける
ワークショップの様子

特別賞

うるま市立津堅小中学校

(沖縄県)

津堅小中学校は、生徒数9名の小規模校で、地域活性化と環境保全を目指し、児童生徒会が中心となって活動しています。学校のスローガンは「今よりもさらに絆を深め、島ならではの青春を楽しもう！」であり、地域住民と協力しながら地域活性化に励んでいます。生徒会では、どのようにして島の景観保全を維持するか、話し合い、海岸清掃を月一で行っている。具体的な活動としては、海岸清掃を行い、その後、ゴミを捨てないようにと立て看板を設置するなどの対策を講じました。民宿業者が主催するゴミ拾いにも参加し、観光客とも協力して継続的な清掃活動を行っています。

また、学校は SDGs(持続可能な開発目標)の視点を取り入れており、特に海洋ごみの問題に関心を持っています。児童生徒は、マイクロプラスチックの調査を行い、3か月に1回その増減を記録しています。清掃活動によって、マイクロプラスチックが減少し、活動の成果が確認できました。この成果はライオン美ら action で発表され、津堅島の現状と課題を広く伝えることができ、島外からもゴミ拾い活動の参加者が増え、生徒会の意欲にも繋がっている。

加えて、赤土流出防止の活動も行っており、グリーンベルトやベチパーという植物について学び、畑周辺の清掃やベチパー植樹を実施しました。これにより、島民と協力して赤土流出の防止活動を実行し地域と連帯をとることができた。さらに、津堅島は高齢化が進んでおり、児童生徒は地域住民と協力して高齢者の家を訪れ、清掃などの手伝いを行っています。地域とのつながりを深め、島全体で協力して行事を進めています。

津堅小中学校は、児童生徒が漁師や民宿業者といった多彩な職業の人々と触れ合う機会が多く、将来の職業についても視野を広げています。また、特に漁師とのつながりが深く、もずく漁見学やハーリー体験などを通じて海との関わりを深めています。さらに、地元の農業活動にも参加し、人参収穫体験を通して農作物の育成過程を学んでいます。

美化活動は少人数で行っていますが、地域住民と密に連携しており、活動の広がりは限られています。今後は、活動内容を他校や市のイベントなどで発信し、より多くの人々に伝えていきたいと考えています。特に、体育祭では地域住民や島外の人々も参加し、地域密着型のイベントとして注目されています。アンケートを使い、地域の意見をまとめて活動を改善していく取り組みも行っています。

本校の活動は SDGs の「海の豊かさを守ろう」に貢献しており、環境保護に対する意識を高めています。地域住民と協力しながら活動を進め、島の環境保護に貢献しています。活動を通じて自分の意見を述べる力をつけ、今後も地域との絆を深めながら、環境保全活動を続けていきたいと考えています。さらに、SNS やホームページを活用して活動を広報し、島民や市民に活動内容を広めていきます。



トゥマイ浜の清掃



マイクロプラスチック調査



津堅島慰霊塔清掃



ベチパー植樹



いこいの家(老人ホーム)での交流



ビティ島応援会との海岸清掃

第19回 SYDボランティア奨励賞 実施要項

公益財団法人修養団では、昭和57年より平成13年まで「蓮沼門三社会教育奨励賞」により多くの優れた社会教育活動を実践した個人、グループ・団体を顕彰して参りました。この実績を踏まえ、平成18年に創立100周年を記念し、新たに「愛と汗の精神」を信条とする《幸せの種まき運動》の実践者を顕彰する「SYDボランティア奨励賞」を設立しました。

主 催:SYD(公益財団法人修養団)

後 援:文部科学省

「広がれボランティアの輪」連絡会議

公益財団法人日本レクリエーション協会

公益社団法人日本キャンプ協会

1. 趣 旨

今日、次代を担う青少年の健全育成はますます重要な課題となっている。そこで、ボランティア活動の分野で著しい活動を実践し、優れた業績をあげたグループや個人を顕彰することにより、青少年のボランティア活動を促進するとともに、活動の習慣化を図り、生きる力や豊かな心を育むなど青少年の健全育成に寄与する。

2. 対 象

原則として、ボランティア活動を実践している学校（生徒会、クラス、クラブ等）やPTA、子ども会等のグループ及び個人

3. 選考基準

次の項目に該当し、高い評価を得られたもの

- (1) ボランティア活動の分野で著しい活動を実践し、優れた業績をあげ、今後の活動に期待のできるもの
- (2) ボランティア活動に創意工夫や新しい方策を取り入れ、新機軸を拓き、今後の活動に期待のできるもの
- (3) ボランティア活動を受け入れ、施設の利用、改善、充実に努め、活動の活性化に寄与している施設またはそれを推進する活動
- (4) 青少年の健全育成を目的としたボランティア活動を実践し、将来が期待されるグループ及び個人

4. 選考方法

学識経験者等7名に選考委員を委嘱し、選考委員会にて決定する。

5. 表彰

文部科学大臣賞 1点

クリスタルトロフィー(表彰状)、副賞(活動奨励金20万円またはSYD「青年ボランティア・アクション in フィリピン」へ1名招待)

優秀賞 3点

クリスタルトロフィー(表彰状)、副賞(活動奨励金10万円)

特別賞 1点

クリスタルトロフィー(表彰状)、記念品



6. 贈呈式

期日 令和7年2月8日(土)

会場 SYDホール(東京・渋谷区)

7. 募集方法

都道府県教育委員会、社会教育団体、青少年団体、学識経験者およびSYD組織、関係者に推薦を依頼するとともに、新聞、雑誌等のマスコミに広報を依頼する。

8. 応募方法

所定の様式に必要事項を記入し、活動報告書の上に添付して下記まで送付する。

9. 締め切り

令和6年11月30日

10. 申込み・問合せ先

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-25-2 SYDボランティア奨励賞 係

TEL:03-3405-5441 FAX:03-3405-5424

E-mail:info@syd.or.jp <https://syd.or.jp/>

選考委員 (順不同・敬称略)	
明石 要一	(千葉大学名誉教授、NPO法人生涯学習応援団ちば理事長)
鈴木 優子	(前[学]立教女子学院理事・法人事務局長)
富士道正尋	(全日本中学校長会事務局長)
林 幸克	(明治大学教授)
山田 一功	([社福]ひかりの里理事長、[公社]日本PTA全国協議会元副会長)
御手洗 康	([公財]修養団理事長)
山崎 一紀	([公財]修養団主幹)

過去受賞者一覧

(敬称略・順不同)

第1回(平成18年度)

- 文部科学大臣賞** 京都市立京都御池中学校(京都府)
- 優 秀 賞** 【小学生の部】鏡石町立第一小学校(福島県)
*【高校生の部】該当なし 【中学生の部】庄原市立東城中学校(広島県)
【大学・一般の部】合同ボランティアネットワーク(神奈川県)
- 特 別 賞** ◆国崎翠・吉居夏奈(北海道)◆美幌町青少年育成協議会(北海道)◆喜多方市山都第一小学校(福島県)◆熱海市立小嵐中学校(静岡県)◆加藤ひとみ(岐阜県)◆伊江村立伊江中学校(沖縄県)

第2回(平成19年度)

- 文部科学大臣賞** 香川県立多度津水産高等学校(香川県)
- 優 秀 賞** 【中学生の部】木更津市立鎌足中学校(千葉県)
*【小学生、一般の部】該当なし 【高校生の部】学校法人高倉学園豊橋中央高等学校(愛知県)
- 特 別 賞** ◆天草市立城河原小学校(熊本県)◆志布志市立通山小学校(鹿児島県)◆東横学園中学・高等学校 中学2年(東京都)◆多治見市立多治見中学校(岐阜県)◆神奈川県立相原高等学校「相こっこプロジェクト」(神奈川県)◆熊本県立盲学校(熊本県)
◆立命館大学国際部国際協力学生実行委員会(京都府)◆ブラジルを美しくする会(ブラジル)

第3回(平成20年度)

- 文部科学大臣賞** 学校法人篠ノ井学園 長野俊英高等学校 郷土研究班(長野県)
- 優 秀 賞** 【中学生の部】新宮町立新宮中学校相島分校 相島少年消防クラブ(福岡県)
*【小学生の部】該当なし 【中学生の部】2008年度屋久島町立小瀬田中学校2年生「笑顔」プロジェクト(鹿児島県)
【高校生の部】更級農業高等学校 農業クラブ 農業応援団「ねこの手隊」(長野県)
【大学・一般の部】八雲ジュニアサポーターズクラブ(島根県)
- 特 別 賞** ◆尾道市立三幸小学校(島根県)◆鳴門市第一中学校 ボランティア部(徳島県)
◆富山県立小杉高等学校 生徒会(富山県)◆富貴中おやじの会(愛知県)
◆高知朝倉里山を造る会(高知県)

第4回(平成21年度)

- 文部科学大臣賞** 豊田市立崇化館中学校 麦の会(愛知県)
- 優 秀 賞** 【小学生の部】日吉子どもサミット(滋賀県)
*【一般の部】該当なし 【中学生の部】名古屋市立はとり中学校(愛知県)
【高校生の部】中央学院高等学校 生物部(千葉県)
- 特 別 賞** ◆SYD北海道クラブ(北海道)◆横浜市立岡村中学校(神奈川県)◆長野県飯田風越高等学校国際教養科3年(長野県)◆みんなでつくる学校 とれぶりんか(大阪府)◆広島文化学園短期大学 食物栄養学科(広島県)

第5回(平成22年度)

- 文部科学大臣賞** 高知大学 高知子ども守り隊 守るんジャー(高知県)
- 優 秀 賞** 【小学生の部】御前崎市立御前崎小学校(静岡県)
【中学生の部】京都市立嵯峨中学校(京都府)
【高校生の部】江楠学園 北陵高等学校 生徒会(佐賀県)
【大学・一般の部】東海大学海洋学部環境サークル E.C.O(静岡県)
- 特 別 賞** ◆清水町立清水中学校 劇団8・9組(静岡県)◆宮城県立塩釜高等学校地活生化班 塩釜ぼんぼん(宮城県)◆愛知県立日進高等学校(愛知県)◆京都精華大学ホスピルアートボランティアグループ(京都府)

第6回(平成23年度)

文部科学大臣賞	善通寺市立東中学校 ボランティア部(香川県)
優 秀 賞	【小学生の部】御蔵島村立御蔵島小中学校 黒潮会(東京都) 【中学生の部】港区立青山中学校 お話会(東京都) 【高校生の部】岡山県立久世高等学校 家庭クラブ(岡山県) 【大学・一般の部】西部点字パソコンサークル・ステップ(静岡県)
特 別 賞	◆大和市立渋谷中学校(神奈川県)◆新潟県立柏崎工業高等学校 防災エンジニア コース3年生、2年生(新潟県)◆栃木県立栃木農業高等学校 村おこしプロジェクト班 (栃木県)◆出雲西高等学校 インターアクトクラブ(島根県)◆播磨マリンクルー(兵庫 県)

第7回(平成24年度)

文部科学大臣賞	埼玉県立桶川西高等学校 科学部(埼玉県)
優 秀 賞	【小・中学生の部】藤岡市立東中学校 生徒会(群馬県) 【高校生の部】盈進中学高等学校 ヒューマンライツ部(広島県) 【大学・一般の部】旭川医科大学 育児院学習サポート(北海道)
特 別 賞	◆喜多方市立第三小学校(福島県)◆V. C. イヤリング(愛知県)◆東京都立大島海 洋国際高等学校 ボランティア部(東京都)◆ ^{あじしま} 網地島 ^{がっこう} ふるさと楽好(宮城県)

第8回(平成25年度)

文部科学大臣賞	鳥取大学 障害児教育研究会(鳥取県)
理事長特別賞	石巻市立牡鹿中学校「笑顔創造プロジェクト」(宮城県)
優 秀 賞	【小・中学生の部】宇都宮市立泉が丘中学校(栃木県) 【高校生の部】京都府立宮津高等学校 建築科(京都府)
*【大学・一般の部】該当なし	◆北海道小樽工業高等学校ボランティア同好会(北海道)◆福島県立平工業高等学 校 生徒会(福島県)◆身延山高等学校 手話コミュニケーション部(山梨県)
特 別 賞	

第9回(平成26年度)

文部科学大臣賞	いなべ市立大安中学校テクニカルボランティア部(三重県)
理事長特別賞	東洋大学学生ボランティアセンター(東京都)
優 秀 賞	【小・中学生の部】塩尻市立榎川中学校雪かきボランティア(長野県) 【高校生の部】岩手県立久慈工業高等学校(岩手県)
*【大学・一般の部】該当なし	◆青森県立名久井農業高等学校 TEAM FLORA PHOTONICS(青森県) ◆末吉っ子支え隊(愛知県)
特 別 賞	

第10回(平成27年度)

文部科学大臣賞	熊本市立天明中学校 生徒会(熊本県)
理事長特別賞	千葉黎明高等学校(千葉県)
優 秀 賞	【小・中学生の部】沼津市立片浜中学校 生徒会(静岡県) 【高校生の部】山口県立柳井商工高等学校まちづくりプロジェクトチーム(山口県) 【大学・一般の部】西九州大学 ESRDサークル(佐賀県)
特 別 賞	◆渋川市立渋川南小学校(群馬県)◆北海道函館水産高等学校 北のくにづくり2015 (北海道)◆高知県立中村高等学校西土佐分校 地域ボランティア隊Rapport(高知 県)◆国際基督教大学 劇団虹(東京都)◆摂南大学 ボランティア・スタッフズ(大坂 府)

第11回(平成28年度)

文部科学大臣賞	豊後高田市立戴星学園(大分県)
理事長賞	神奈川県立吉田島高等学校 草花部(神奈川県)
優秀賞	【小・中学生の部】唐津市立浜玉中学校(佐賀県)
*【大学・一般の部】該当なし	【高校生の部】大森学園高等学校 おもちやの病院(東京都)
特別賞	◆長野県下高井農林高等学校 園芸福祉クラブ(長野県) ◆九中校区すこやかネット(大阪府)

第12回(平成29年度)

文部科学大臣賞	兵庫県立舞子高等学校 天文気象部(兵庫県)
優秀賞	【小・中学生の部】名古屋市立北山中学校 ボランティア部(愛知県)
*【大学・一般の部】該当なし	【高校生の部】東京都立大島高等学校 カメリアユナイテッド(東京都)
特別賞	◆広島県立広高等学校 書道部(広島県)

第13回(平成30年度)

文部科学大臣賞	多摩市立東落合小学校 ゴミ出しボランティア(東京都)
優秀賞	【小・中学生の部】北九州市立霧丘中学校 特別支援学級「econnect project」(福岡県)
	【高校生の部】宮城県名取北高等学奉仕活動部(宮城県)
	【大学生の部】BLUE WALK(愛知県)
特別賞	◆名古屋市立工芸高等学校 WEB部(愛知県) ◆名城大学 ボランティア協議会(愛知県)

第14回(令和元年度)

文部科学大臣賞	島根県立大学 献血サークル あかえんぴつくん(島根県)
優秀賞	【小・中学生の部】稲城二中シンガーズ(東京都)
*【大学・一般の部】該当なし	【高校生の部】名古屋市立工芸高等学校 防災チーム(愛知県)
特別賞	◆復興支援東北の物産販売 高校生プロジェクト in 岩見沢(北海道) ◆宮城県農業高等学校 次世代の被災地語り部ボランティア(宮城県)

第15回(令和2年度)

文部科学大臣賞	北九州市立大学 地域共生教育センター 子ども食堂応援プロジェクト(福岡県)
優秀賞	【小・中学生の部】刈谷市立雁が音中学校(愛知県)
	【高校生の部】青森県立名久井農業高等学校 5代目 TEAM PINE(青森県)
	【大学生の部】ベイラー大学 ベイラー・イン・ジャパン(アメリカ)
特別賞	◆名寄市立名寄東中学校 ボランティア部(北海道) ◆福島県立平工業高等学校 生徒会(福島県)

第16回(令和3年度)

文部科学大臣賞	唐津南高校 虹の松原プロジェクトチーム(佐賀県)
優秀賞	【小・中学生の部】姫城中学校 姫ボラ(宮崎県)
	【高校生の部】群馬県立大泉高等学校 植物バイオ研究部(群馬県)
	【大学・一般の部】東京家政大学ヒューマンライフ支援センター 地域小学校との食育連携プロジェクト(東京都)
特別賞	◆山鹿市立鹿北中学校 生徒会 ◆熊野高等学校 Kumano サポーターズリーダー部(和歌山県)

第17回(令和4年度)

文部科学大臣賞 札幌市立宮の森中学校 科学部 科学工作ボランティア (北海道)
優 秀 賞 【小・中学生の部】陸別町立陸別中学校 ボランティア部 (北海道)
【高 校 生 の 部】福岡県公立古賀竟成館高等学校 家庭クラブ(福岡県)
【大学・一般の部】山口学芸大学 ボランティアサークル 子どもの木(山口県)
特 別 賞 ◆福島きずなプロジェクト 廣瀬 はる (神奈川県)

第18回(令和5年度)

文部科学大臣賞 富田林市立第一中学校 人権サークル (大阪府)
優 秀 賞 【小・中学生の部】猪苗代町立猪苗代中学校 総合文化部 (北海道)
【高 校 生 の 部】奈良県立商業高校 部局たまつえ (福岡県)
【大学・一般の部】(3.11)∞実行委員会 (東京都)
特 別 賞 ◆ポテトプロジェクト(兵庫県)
◆上越高等学校 サッカー部 (新潟県)



SYD「幸せの種まき運動」とは

—みんなでまこう！幸せの種—をスローガンとして、まわりの人々に、社会に、一粒でも多くの‘幸せの種’をまいていこうという運動です。

さりげなく、よろこんで、出来るだけ‘幸せの種’をまいていきましょう。

種をまくときは、あなたの“笑顔”という栄養分を添えて！

《三つの‘幸せの種’》

☆こんにちは！という

‘ふれあいの種’

☆どうぞ！という

‘思いやりの種’

☆ありがとう！という

‘よろこびの種’